

「海鷗 (かもめ)」

かまだ か
鎌田 華

はるかぜ き みどり うつく おがはんと う わたし
春風がふいて、木の緑が美しくなる男鹿半島で、私が

かいが ん さんぽ うつくしろ かもめ み か
海岸を散歩すると美しい白い海鷗を見ることができます。海

もめ うつくしろ かわい み
鷗はなんと美しく白く、なんと可愛いんだろう、よく見ると

かぜ ふ あめ ふ ゆうかん と まわ わたし ふるさと み かもめ おも だ
風が吹き、雨が降っても勇敢に飛び回っている。私に故郷で見た海鷗を思い出させ

わたし じゅうなさい と きよ しょうせつ おも だ
ます。私が17歳の時読んだ小説を思い出します。

むかし でんせつ ちい ぎょそん ひとくみ なか ふうふ す おとこ
昔の伝説によると、ある小さな漁村に一組の仲のよい夫婦が住んでいました。男

ひと さかな おんな ひと あみ つく ひ おとこ ひと あらし なか りょう
の人は魚をとり、女の人は網を作っていました。ある日、男の人は嵐の中で漁

で し うみ しず おんな ひと まいにちかいが ん た おとと
に出かけて死んでしまい、海に沈んでしまいました。女の人は毎日海岸に立って夫

さが もと おとと かせ と き す おんな ひと な
を捜し求めていましたが、夫は帰ってきませんでした。時は過ぎ、女の人も亡くな

りましたが、おんな かもめ かもめ じぶん おとと さが な
りましたが、女は海鷗になりました。そして海鷗になっても自分の夫を捜して、泣

つつ と じぶん あいじょう ささ あらし なか な
き続けて飛んでいるのです。自分の愛情のすべてを捧げて、嵐の中でも泣きながら

と つつ
飛び続けているのです。

わたし かもめ み ふるさと でんせつ ふうふ あいじょう おも だ
私が海鷗を見ると、故郷の伝説の夫婦のすばらしい愛情を思い出すのです。

じゅうなさい ころ おも だ いま なみだ で
17歳の頃を思い出すと、今でも涙が出ます。

